

第3回「新時代における徳島県公立高等学校の
在り方検討会議」の概要について

徳島県教育委員会教育創生課

第3回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」の概要

1 日時 令和3年5月31日(月) 午後1時から午後3時まで

2 場所 徳島県庁10階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 15名中13名出席

(2) 県教委 教育次長, 教育創生課長, 他事務局員計4名

4 議事概要

(1) 事務局説明

①徳島県公立高等学校・中等教育学校のスクール・ミッション一覧について

②「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」の広報イメージについて

③スクール・ポリシーについて

・スクール・ポリシーの概要について

・スクール・ポリシー作成上の留意点について

・スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等について

(2) 意見交換

5 意見交換において検討会議委員から出された主な意見

(1) 徳島県公立高等学校・中等教育学校のスクール・ミッション一覧について

①スクール・ミッションは, 固有名詞を多用するなど各校の特長がよく出ている上に, 子どもにも分かりやすい文言で表現されている。

(2) 「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」の広報イメージについて

①QRコードを多用しながら, 制服やPR動画等がすぐに見られるようになっており, 見やすさ・分かりやすさの視点から工夫が凝らされている。

②中学生や保護者にダイレクトに伝え, 県外へ広報することも視野に入れて, ホームページだけでなくSNSも活用した方が良いのではないかと。

③高校の体験入学がコロナ禍で開催が困難な中, 動画による情報提供や入試広報に, より一層取り組み, 中学生の高校に対する理解が深まるようにしてほしい。

④作成後, 各学校が毎年更新する際に, 県教委と学校でしっかり協議して調整し, よりよいものにしていくことが重要である。

(3) スクール・ポリシーについて

①学校運営協議会を有効に活用し, 学校関係者の意見を評価に反映させて, スクール・ポリシー及びそれに基づく教育活動の改善につなげてほしい。

②スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価は, 学校の教員が「評価疲れ」を起こさないよう, 「学校評価」を活用しながら評価すればいいのではないかと。

③「入学者の受入れに関する方針」に係る取組を入学時に評価するのであれば, 高校入試の受検者数や昨年度との比較で評価するしかないのではないかと。

④「入学者の受入れに関する方針」に係る取組の評価は, 当該生徒が入学後しばらく経って活躍しているかなど, 継続的に見ることで可能になるのではないかと。

※ 今後の広報スケジュール

1 6月下旬 スクール・ミッションとスクール・ポリシーを, 県と各校のホームページにて公表

2 7月下旬 「広報イメージ」に基づいて各校が作成した「学校情報」を, 「生徒募集案内」に記載し, 県と各校のホームページにて公表

第3回新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議

次 第

日時 令和3年5月31日（月）

午後1時から

場所 徳島県庁10階 大会議室

1 開会

2 議事

- (1) 徳島県公立高等学校・中等教育学校のスクール・ミッション一覧について
- (2) 「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」の広報イメージについて
- (3) スクール・ポリシーについて
 - ・スクール・ポリシーの概要について
 - ・スクール・ポリシー作成上の留意点について
 - ・スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等について
- (4) 意見交換
- (5) その他

3 閉会

配付物一覧

- (1) 検討会議次第（本紙）
- (2) 会場配席図

[資料]

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 資料1 | 新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議委員一覧 |
| 資料2 | 第2回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」概要 |
| 資料3 | 徳島県公立高等学校・中等教育学校のスクール・ミッション一覧 |
| 資料4 | 「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」の広報イメージ |
| 資料5 | スクール・ポリシー作成上の留意点 |
| 資料6 | スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等について |

- 参考資料
- ・第2回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」会議録
 - ・スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づく教育活動の実施・改善（イメージ）
 - ・コミュニティ・スクール～地域とともにある学校づくり～

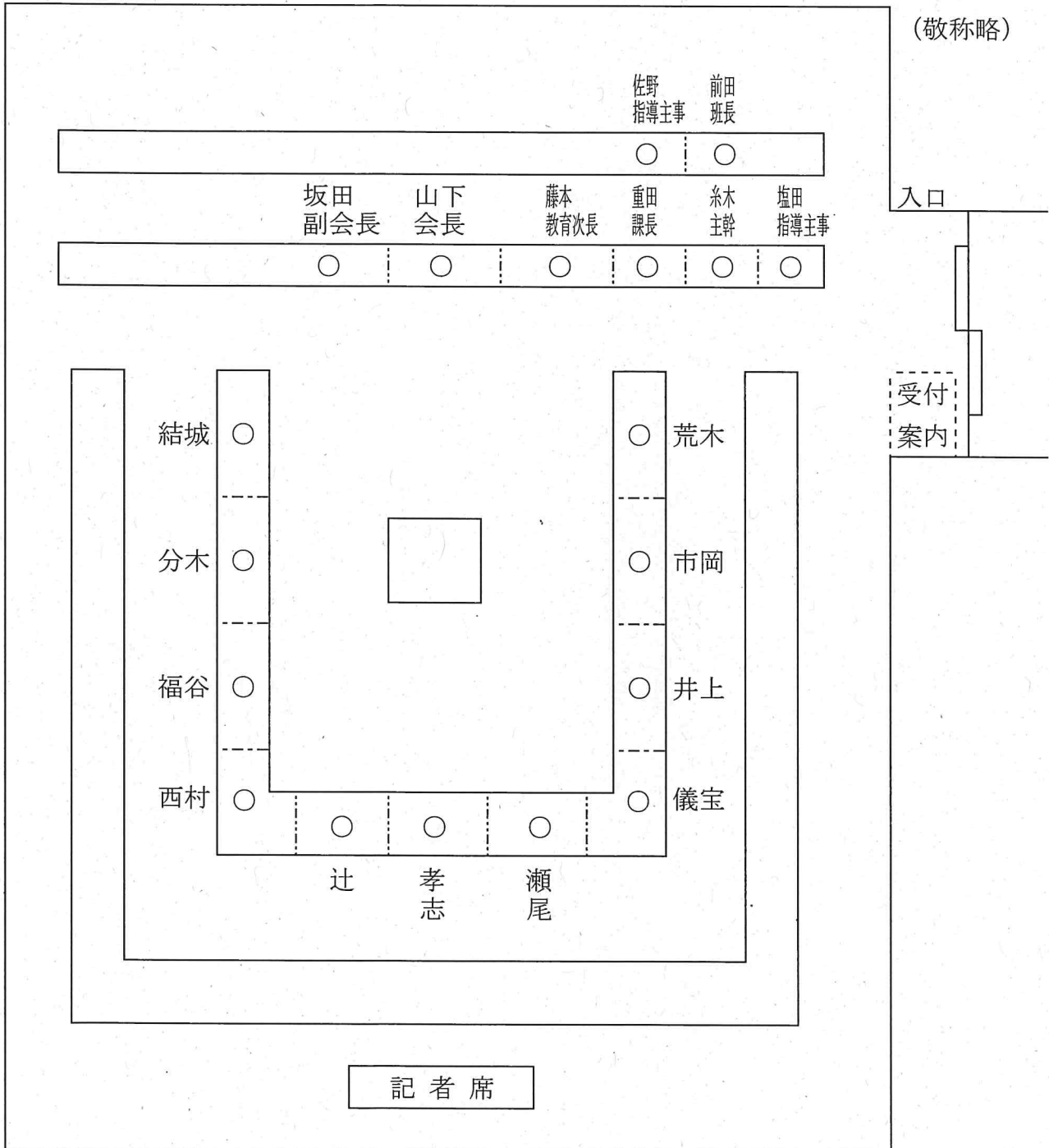
第3回新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議 会場配席図

日時 令和3年5月31日(月)

午後1時から

会場 県庁10階 大会議室

(敬称略)



新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議委員一覧

令和3年5月31日現在

氏名	役職等
荒木 光二郎	公益財団法人徳島経済研究所 専務理事
市岡 沙織	市岡製菓株式会社 代表取締役社長
井上 浩子	徳島県立富岡東中学校・高等学校 学校評議員
儀宝 修	徳島県立徳島科学技術高等学校 校長
近藤 明子	四国大学経営情報学部 准教授
坂田 千代子	一般社団法人徳島経済同友会 代表幹事 株式会社あわわ 会長
瀬尾 陽子	徳島県立吉野川高等学校 PTA会長
孝志 茜	さくら税理士法人 公認会計士・税理士
辻 貴博	貞光食糧工業株式会社 代表取締役社長
西村 智子	川城・西村法律事務所 弁護士
福谷 あずさ	ケーブルテレビ徳島株式会社 コンテンツ事業部編成グループ 係長
分木 秀樹	公益財団法人徳島県スポーツ協会 専務理事
松本 賢治	徳島県市町村教育委員会連合会 会長 徳島市教育委員会 教育長
山下一夫	鳴門教育大学 学長
結城 栄子	吉野川市立川島中学校 校長

※ 50音順 敬称略

第2回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」概要

- 1 日 時 令和3年3月19日（金） 午前10時から正午まで
- 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル 1階 ヴィリオールーム
- 3 出席者
 - (1) 委 員 15名中14名出席
 - (2) 県教委 教育次長，教育創生課長，事務局員4名
- 4 議事概要
 - (1) 事務局説明
 - 徳島県版「スクール・ミッション」の策定について
 - 各高等学校のスクール・ミッション（案）について
 - (2) 意見交換
- 5 意見交換において検討会議委員から出された主な意見
（特色化・魅力化を図るための方策について）
 - (1) 徳島県版「スクール・ミッション」の策定について
 - ①スクール・ミッションは理念，スクール・ポリシーは具体的な取組を示すものであり，これらは両輪のような形で考える必要がある。
 - ②スクール・ミッションの策定にあたっては，学校側と意見交換をしながら，実効性のあるものにしてもらいたい。
 - ③スクール・ポリシーには，例えば，他校にはない学校設定科目があるなど，より具体的な内容を盛り込んでもらいたい。
 - (2) 各高等学校のスクール・ミッション（案）について
 - ①各高等学校の案にあるように，「地域」「グローバル」などのキーワードを盛り込むことは，徳島教育大綱の基本方針に対応しておりの確である。
 - ②その学校の特長が伝わってくるような言葉や，チャレンジングなミッションなどを掲げることで，普通科の特長を表し，イメージしやすくする必要がある。
 - ③県教委が各高等学校のスクール・ミッションを公表することで，学校の序列化が進むようなことがあってはならない。
 - (3) その他
 - ①広報については，見やすさ，分かりやすさという視点で検討し，できるだけ数値化・図示化するなど，他県の例も参考にしながら一層の工夫を期待したい。
 - ②県のホームページに各高等学校の一覧を掲載したり，動画を活用したりするなど，中学生や保護者などが気軽に閲覧できるようにしてはどうか。
 - ③学校では必ず取組に対する評価を行うので，スクール・ミッション，スクール・ポリシーに係る評価についての検討が必要である。

※各高等学校のスクール・ミッションの策定スケジュール

- | | | |
|---|--------|---|
| 1 | 4月 9日 | 第1回定例教育委員会で報告。 |
| 2 | 4月 中旬 | 各高等学校と協議・調整。 |
| 3 | 4月26日 | 第2回定例教育委員会でスクール・ミッション策定。 |
| 4 | 4月下旬以降 | 各高等学校においてスクール・ポリシー作成。 |
| 5 | 5月 下旬 | 第3回在り方検討会議開催。 |
| 6 | 7月 下旬 | スクール・ミッション及びスクール・ポリシーを盛り込んだ「生徒募集案内」として周知。 |

スクール・ミッション一覧

第1学区

学校名	学科名	スクール・ミッション
小松島	普通	自分の物語をつづっていくキャリア・パスポート「未来手帳」や、生徒が教師役となる「生徒授業」、 <small>「松原育樹ボランティア」</small> など、生徒主体の活動をとおして、地域の経済活動や社会生活を豊かにする実践力を育成します。
小松島西	商業 家庭 福祉	「ビジネス・食・アパレル・福祉」に関する専門的な知識・技術を習得するとともに、実社会で活躍するプロによる講習や地域行事への参加など体験活動をとおして、幅広い視野を持って地域社会に貢献するために必要となる力を育成します。
小松島西 勝浦校	農業	「ゆこう」を使った商品開発や「檜原の棚田」の保全活動など地域の資産を生かして、野菜・果樹や草花の生産・栽培と環境保全に関する専門的な知識・技術を習得し、人とのつながりを大切にすると、地域産業を支える力を育成します。
富岡東	普通 商業	「さわやかで活力あふれる富東」の理念のもと、探究活動に力を入れる普通科と地域と連携して実践力を養う商業科の生徒が、学校行事や部活動などで切磋琢磨し、併設中学校の生徒とも交流できる環境を生かして、国内外で活躍できる力を育成します。
富岡東 羽ノ浦校	看護	「看護の道」を志す者としての豊かな心を育み、専門的な知識・技術を習得できる「5年一貫」の教育環境を生かして、生涯にわたり学びの姿勢を持った、社会に貢献できる看護師として必要となる力を育成します。
富岡西	普通 理数	グローバル企業や国内外の大学、地域との連携のもと、情報分析や考察を行う「科学的研究活動」や、地方創生をテーマにした「探究活動」などをとおして、「地域社会をイノベーション(革新)」する実践力を育成します。
阿南光	工業 総合	「農工商が一体化」した専門高校として、「徳島大学サテライトキャンパス」を置く新野キャンパスでの高大接続教育や、地元企業などとの連携により、6次産業化に対応し、ものづくりを重視した教育活動をとおして、地域の未来を創造する力を育成します。
那賀	普通 農業	那賀町など関係機関との連携のもと、進学と就職に対応する「3つのコース」を持つ普通科と、林業機械操作などの資格取得や実習により「林業のスペシャリスト」をめざす森林クリエイト科の特長を生かして、地域産業など社会に貢献できる力を育成します。
海部	普通 理数 商業	県内外から集う仲間とともに、「SDGsを軸とした地域学習 <small>あまべがく</small> (海部学)」や「オンライン英会話」、「起業体験」など、多様なニーズに対応した教育活動をとおして、地域の未来を担うために必要となる力を育成します。

第2学区

学校名	学科名	スクール・ミッション
鳴門	普通	大学教員の特別講義や大学院生によるサポートなど「鳴門教育大学との連携」や、『ボランティア学特講』など学校独自に設定した多様な科目を生かして、グローバルな視点を持って地域社会に貢献するために必要となる力を育成します。
鳴門渦潮	体育総合	県立高校唯一の「スポーツ科学科」と、選択できる系列(コース)数と授業時間数とが県内で最も多い「総合学科」の特長を生かして、国内外で活躍するトップアスリートとしての力や地域を支えるために必要となる力を育成します。
板野	普通	お接待をはじめとする「ボランティア活動」や、1年次に取り組む「インターンシップ」など、地域との連携による様々な活動をとおして、人とのつながりを大切にする心と、広く社会に貢献できる力を育成します。
名西	普通芸術	「文化芸術リーディングハイスクール」として、プロの芸術家などから指導を受ける機会を生かして、普通科と芸術科の生徒が互いに感性と能力を磨き合い、社会生活を豊かにするための創造力やトップアーティストとしての力を育成します。
吉野川	農業商業	食の安全・安心に配慮した「生産・加工・販売・店舗経営」など、「農業・商業の連携教育」のもと、専門的な知識・技術を習得できる教育環境を生かして、地域産業を支えるために必要となる力を育成します。
川島	普通	中学生と高校生が学校行事や部活動で交流するなど、「併設型中高一貫教育校*」ならではの互いに認め合い切磋琢磨できる環境や、「海外語学研修」などの国際交流の機会を生かして、グローバルな視点を持って地域社会に貢献できる力を育成します。 *市町村立中学校と県立川島中学校から入学します
阿波	普通	地元自治体や企業などと連携した「地域探究活動」における、「環境問題」をはじめとしたSDGsの実現に向けた課題解決学習などをとおして、自己の未来をデザインしようとする主体性と、経済活動や社会生活を豊かにする力を育成します。
阿波西	普通	「地元中学校との連携」や、地域のニーズに対応した「福祉やビジネス、アカデミック(学術)の3コース制」、「少人数学習」などの特長を生かして、人とのつながりを大切にする心と、地域を支えるために必要となる力を育成します。
穴吹	普通	「地域との連携」や徹底した「少人数学習」のもと、『ふるさと探究』や『楽しい実験』など学校独自に設定した多様な科目を生かして、一人ひとりの個性や可能性を伸ばし、地域社会が抱える諸課題の解決能力など社会に貢献できる力を育成します。
脇町	普通	全教科・科目で取り組む「協働的問題解決学習」と、県内外の大学や地域との連携によるビッグデータやIoT/AIを活用した「課題研究」などをとおして、科学的・論理的思考力を培い、各分野で活躍できる力を育成します。
つるぎ	工業商業	地域に根ざした工業教育・商業教育の連携のもと、「充実したICT教育環境」を生かして、確かな学力と専門的な知識・技術を習得し、地域社会の発展に貢献する「スペシャリスト」として必要となる力を育成します。
池田	普通理数	地元自治体や大学、企業、四国他県の高校などとの連携のもと、「フィールドワーク」を積極的に取り入れた「探究活動」をとおして、地域が抱える課題を発見・解決し、地域の未来を担うために必要となる力を育成します。
池田辻校	総合	「商業・生活・医療福祉」の3系列のもと、進路に応じて『ビジネスマナー』や『レクリエーションスポーツ』など多様な科目から選択できる「総合学科」の特長を生かして、地域を支えるために必要となる力を育成します。
池田三好校	農業	「夏秋イチゴ」や「ホンシメジ」など、地域と連携した「ブランドの創出に繋がる農業教育」の特長を生かして、人間力と創造力を培うとともに、県西部の農業と林業を中心とした地域産業を支えるために必要となる力を育成します。

第3学区

学校名	学科名	スクール・ミッション
城東	普通	県内全域から集まる仲間と切磋琢磨する環境の中で、グローバルな企業・大学との連携による「企業研修」・「海外研修」・「探究活動」など、将来を見据えた教育活動をとおして、国内外で活躍できる「グローバル人財」に必要な力を育成します。
城南	普通 理数	県内で最も古い歴史と伝統の中で培われてきた「自主自立」の精神のもと、応用数理科の課題研究と、そのノウハウを活用した普通科の探究活動などをとおして、「未来を切り拓くイノベーター(革新者)」として必要となる力を育成します。
城北	普通 理数	「地元大学・企業との連携」のもとで行うSDGsに関する探究活動や、徳島ならではの「伝統文化の継承」活動、個に応じた多様な選択科目の学習などをとおして、豊かな社会生活の実現に貢献し、将来の徳島をけん引するために必要な力を育成します。
城ノ内 中等教育	普通	県内唯一の中等教育学校として、「6年間」を見通したカリキュラムのもと、「先取り学習」や「国内外の中高一貫教育校との交流」、中高の切れ目のない部活動などをとおして、社会が抱える諸課題を解決できる力を育成します。
徳島北	普通 外国語	英語教育をリードする学校として、英語の4技能をバランスよく高める授業や大勢のALTと英語のみで過ごす「English Day」、「海外語学研修」などの活動をとおして、国際的視野を持った「グローバル人財」に必要な力を育成します。
徳島市立	普通 理数	「真に自由で清新な校風」を理念とする県内唯一の市立高校として、徳島市内外の恵まれた人的・物的資源を最大限に活用した教育活動をとおして、「学問・スポーツ・芸術」における探究的・創造的イノベーター(革新者)やアスリート・アーティストとしての力を育成します。
城西	農業 総合	「6次産業化教育の基盤となる農業教育」や、「人文・情報・ビジネス・自然・生活・福祉」から選択できる総合学科の特長を生かして、一人ひとりの個性・可能性を伸ばし、地域産業を支えるために必要となる力を育成します。
城西 神山校	農業	神山町や地域企業との連携のもと、「まち全体を学びの場」とした「食・農・環境」に関する教育活動をとおして、農業の専門的な知識・技術を習得し、自ら主体となって地域が抱える諸課題を解決する力や地域産業を支える力を育成します。
徳島 科学技術	工業 水産	工業科・水産科の6類11コースにおいて、進学と就職に対応した「ハイブリッド型教育システム」を生かして、「将来の産業界を担う高度技術者」や「地元産業界を支える実践技術者」に必要な力を育成します。
徳島商業	商業	変革と挑戦を続ける伝統ある商業高校として、カンボジアとのフェアトレード商品開発をはじめとした「エシカル消費」活動などをとおして、「グローバル」な視点を持ってビジネス界で活躍できる力を育成します。

定時制課程・通信制課程

学校名	学科名	スクール・ミッション
徳島 科学技術	工業	適性や進路希望に応じた少人数での「機械、電気、建築」の学習や、「資格取得」に向けた学習などをおして、工業の専門分野に関する知識・技能を伸ばし、地域社会や産業界に貢献できる実践的な技術者に必要となる力を育成します。
徳島中央	普通 ※通信制は 普通・看護	「定時制の昼間部(午前・午後)と夜間部、通信制」の多様な学習形態から自分に合ったスタイルを選択するとともに、少人数学習のもと、「各課程」や「しらすぎ中学校」との連携、「地域貢献活動」などをおして、社会的・職業的自立に必要な力を育成します。
富岡東	普通	「星空教室」、「自然文化体験活動」などの学校独自の行事や、家庭科、商業科の選択科目などから生活に役立つ知識を少人数で学ぶことをおして、これからの時代に求められる社会人としての力を育成します。
鳴門	普通	少人数の「家庭的な雰囲気」の中、様々な目標を持つ仲間が互いに切磋琢磨しながら友情を育むとともに、それぞれのニーズに応じて学習することをおして、夢の実現に必要な力を育成します。
名西	普通	少人数でのニーズに応じた学習や、地元起業家を講師とした進路講演会などの「キャリア教育」をおして、能力・可能性を伸ばし、これからの時代に求められる社会人としての力を育成します。
池田	普通	少人数での一人ひとりの適性に応じたきめ細やかな学習や、「環境美化活動」などの地域や関係機関と連携した活動をおして、地域社会を支える人財として必要となる力を育成します。

「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」の広報イメージ(修正案)

「徳島教育大綱」基本方針「未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる『人財』の育成」

①「未来を切り拓いていく人財」 ②「新たな価値を創造していく人財」 ③「地域を輝かせる人財」

ふりがな	〇〇〇〇		学校 HP▶	令和3年度 募集定員 (現高1生)	普通科	〇〇〇科
学校名	徳島県立〇〇〇高等学校			100名 3クラス	30名 1クラス	
電話番号	088-〇〇〇-〇〇〇〇	◇通学方法別生徒数 その他 33 徒歩 24 JR 152	※R3.5.1現在 379 自転車 170	◇学校生活	※R3.5.1現在	校則・制服
住所	徳島市〇〇町〇丁目〇〇-〇〇			◎バイク通学条件付き許可 (2年生から通学距離10km以上の者)	◎アルバイト条件付き許可 (定期考査全科目35点以上の者)	
アクセス	JR〇〇駅から自転車で〇〇分					
キーワード	「地域貢献」「道德教育」		キーワード ・文字数の合計は12文字まで			学校生活 ・スマートフォンやバイク通学、 アルバイト等に関する校則など ※施設面に関することは除く ・2項目
スクール・ミッション	地域との連携のもと、伝統的に受け継がれてきた「道德学習」や「地域ボランティア活動」とおとして、思いやりの精神と的確な行動力を培い、地域社会に貢献できる人財として必要な力を育成します。					
スクール・ポリシー(抜粋)	普通科			〇〇〇科		
育成を目指す 資質・能力	◎地域社会を活性化させるための発想力と実行力を育成します。(全科共通)			◎政治経済分野における秀でた能力を育成します。		
特色ある 教育課程	◎国語、公民、情報の授業を増やしています。			◎総合的な探究の時間は公共政策面の課題に 取り組みます。		
志願してほしい 生徒像	◎公正・公平な気持ちと公共心とを強く持った生徒を募集します。(全科共通)			◎英語のコミュニケーション能力の向上に熱心に取り組んできた生徒を募集します。(全科共通)		
特色ある 取組や学校行事	◎修学旅行は2年次に「東北4県」を巡り、町おこしの方策について学習します。(全科共通)			◎「四国霊場〇番～〇番ボランティアガイド」体験(〇泊)(希望者)を実施します。(全科共通)		
PR動画 	◎毎年4月に「全クラス対抗! 地域ゴミ拾い大会」という恒例行事があります。(全科共通)			◎2年生は、希望する大学・学科等に分かれ、高大連携 授業に参加します。		
部活動 []は同好会 下線は特色選抜を実施	運動部 (全8部)	硬式テニス(男女) 卓球(男女)	陸上競技(男女) バドミントン(男女)	硬式野球(男) バレーボール(女)	サッカー(男) ダンス(女)	
詳しくは こちら▼ 	文化部 (全10部)	美術・書道 新聞・写真	文芸 地域探究	写真 人権・ボランティア	百人一首 [英会話]	囲碁・将棋 [e-スポーツ]
	◎ダンス部は、ダンス甲子園の四国予選で準優勝(R×.×.)			◎卓球部は、県総体で女子ダブルス準優勝(R×.×.)		
	◎人権・ボランティア部員12名は、□□被災地の避難所運営ボランティアとして2週間活動(R×.×-×.)					
今春(R3)の 進路実績	<普通科> 卒業生95名 			<〇〇〇科> 卒業生29名 		
詳しくは こちら▼ 	◇進学状況(大学・短大) 文学・人文学 外国語学 18名 経済・経営 商学関係 13名 法学 5名 その他 14名			◇進学状況(大学・短大) 経済・経営 商学関係 10名 文学・人文学 外国語学 5名 法学 3名 その他 4名		
	◇就職状況 製造業 10名 卸売業 小売業 4名 公務員 2名 その他 4名 民間企業 16名のうち県内 12名 公務員 2名のうち県内 2名 その他 2名のうち県内 2名			◇就職状況 公務員 4名 製造業 1名 民間企業 1名のうち県内 1名 公務員 4名のうち県内 4名 その他 0名		
	◎R3春の卒業生のうち6名が、県庁または県内市町村役場の行政職に就職できました。					

スクール・ポリシー(抜粋)
・3つの方針について、
学科として2項目ずつ

特色ある取組や学校行事
・学科として4項目ずつ
・スクール・ポリシー(抜粋)の欄に
記載できなかった項目も
記載可

部活動の主な実績
・4項目まで
・特に記載しない場合、
記載欄を削除

進路実績に関するPR
・2項目まで
・特に記載しない場合、
記載欄を削除

スクール・ポリシー作成上の留意点

- 1 大学科ごとに次の3種類の方針を作成してください。
 - 【育成をめざす資質・能力に関する方針】
高校卒業までに生徒に身に付けさせようとする資質・能力を記載してください。
 - 【教育課程に関する方針】
新学習指導要領に即して、学校ならではの特徴ある教育内容を記載してください。
 - 【入学者の受入れに関する方針】
志願してほしい生徒の資質・能力を記載してください。
- 2 ①スクール・ミッションを受けて、より具体的に記述してください。
②それぞれ平易な言葉を用いて箇条書き(35字以内(数字・カタカナは除外))で記述してください。
③3種類の方針それぞれについて、2～7箇条程度で作成してください。
④スクール・ポリシーの全部または一部は「生徒募集案内(新様式)」に記載する予定です。

例 スクール・ミッション (〇〇高校)

地域との連携のもと、伝統的に受け継がれてきた「道徳学習」や「地域ボランティア活動」をとおして、思いやりの精神と的確な行動力を培い、地域社会に貢献できる人財として必要な力を育成します。

スクール・ポリシー 《〇〇科》

【育成をめざす資質・能力に関する方針】

- 1 日本語と英語の美しい表現力・コミュニケーション能力を育成します。
- 2 法律・経済システムに関する知識など政治経済分野の能力を育成します。
- 3 相手を思いやる気持ちと的確な行動力を育成します。(全科共通)
- 4 地域社会を活性化させるための発想力と実行力を育成します。(全科共通)

【教育課程に関する方針】

- 1 全学年で国語、公民、情報の授業を標準より1時間多く設定しています。
- 2 学校独自の科目『徳島の環境問題』や『おもいやり学』を設定しています。
- 3 総合的な探究の時間は「公共政策に関する課題」に取り組みます。
- 4 学校行事や部活動においても礼儀やマナーなどを重視します。(全科共通)
- 5 毎年1回「全クラス対抗!地域ゴミ拾い大会」を実施します。(全科共通)
- 6 「四国霊場〇～〇番ボランティアガイド体験(〇泊)(希望者)」を実施します。

【入学者の受入れに関する方針】

- 1 公正・公平な気持ちと公共心とを強く持った生徒を募集します。
- 2 あいさつの励行と日々の清掃活動に熱心に取り組んできた生徒を募集します。
- 3 英語のコミュニケーション能力の向上に熱心に取り組んできた生徒を募集します。
- 4 毎日新聞を読み、公民や情報の学習に意欲的に取り組む生徒を募集します。
- 5 生徒会の中心人物として学校の活性化に意欲的に取り組む生徒を募集します。

- 3 スクール・ポリシーは、毎年度点検評価している「学校評価」等に連動するものです。したがって、スクール・ポリシーについても、毎年度評価の必要性があるということを踏まえた上で作成してください。また、スクール・ポリシーの策定等に当たっては、学校運営協議会等の場も御活用ください。

なお、新しい「教育大綱」や「教育振興計画」が策定される予定の2年後を目途に、スクール・ミッションとスクール・ポリシーは見直し・修正する予定としています。

- 4 スクール・ミッションは、各学校が定めている「学校教育目標(名称は各校多様)」に代わるものではありませんが、スクール・ポリシーは、これまで各学校が定めていた「学校経営方針(名称は各校多様)」に令和4年度から代わる(令和3年度は並存)ものと考えてください。

スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等について

1 スクール・ポリシー等の位置づけ

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
県	教育大綱 (推進期間:4年間)				次期 策定(予定)	
	県教委				次期 策定(予定)	
	教育振興計画 (計画期間:5年間)				次期 策定(予定)	
	スクール・ミッション		策定 R3.4		(修正可)	
学校	学校教育目標			「校訓・校風等」 に置きかえ可		
	学校経営方針			スクール・ポリシー に移行		
	スクール・ポリシー 三つの方針		策定 R3.7		(修正可)	
	本年度の重点目標 〈学校評価〉					
学校運営協議会		導入 R2 3校	R3 +17校	R4 +13校	全校 設置	
高校入試			ポリシー を周知	ポリシー を反映		

2 スクール・ポリシーと学校運営協議会の関係(案)

- (1) スクール・ポリシーに基づく教育活動について、年度ごとに学校運営協議会で意見をいただく。
- (2) スクール・ポリシーの見直しについて修正が必要であるか、教育振興計画の策定期間(5年ごと)にあわせて学校運営協議会と協議を行う。

3 スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価(案)

- (1) 令和4年度から、スクール・ポリシーと関連させた重点目標を設定する。
- (2) 重点目標の達成状況や達成に向けた取組の適切さ等については、学校評価等を活用して毎年度評価する。

〈学校評価〉

公立学校では、毎年度、重点課題の把握により重点目標と評価指標の設定等を行い、自己評価及び学校関係者評価を実施し、その結果を公表している。

スクーラー・ポリシーと学校評価の総括評価表を関連させるイメージ

スクーラー・ポリシー		学校評価				
育成を目指す 資質・能力に関 する方針	(関連する) 教育課程に関 する方針	(関連する) 入学者の受入 れに関する方 針	自己評価	評価	学校関係者評価	
<p>◎地域社会を活性化させたいと実践力と実行力を育成します。</p> <p>◎学校独自の中心人物として『徳島の環境問題』や『おもいやり学』を設定しています。</p> <p>◎毎年1回「全クラス対抗！地域ゴミ拾い大会」を実施します。</p> <p>◎「四国霊場〇〇番ポラテンティアガイド体験(〇泊)(希望者)」を実施します。</p>	<p>◎生徒会の中心人物として学校の活性化に意欲的に取り組む生徒を募集します。</p>	<p>◎生徒の地域課題に対する関心を高める。</p> <p>◎地域に根ざした学校づくりに取り組む。</p> <p>◎生徒会活動を活発化し、地域社会との交流を図る。</p>	<p>評価指標と活動計画</p> <p>評価指標</p> <p>1) 地域社会に係る課題の理解が深まったとされる生徒の割合80%以上。</p> <p>①「徳島の環境問題」や「おもいやり学」の中で、地元地域の方を外部講師として招聘し、それぞれ年間2回実施する。</p> <p>② 大学や地元のNPO法人等と教職員による協議会を年間3回以上開く。</p> <p>③ ポラテンティアガイド体験の参加者を15名以上とする。</p> <p>活動計画</p> <p>1) 地域連携の在り方協議会を校内に設置し、取組の充実を図る。</p> <p>① 各学年ごとに年間指導計画を立て、それに基つき講義を行う。</p> <p>② 連絡協議会を各学期ごとに1回以上設定する。</p> <p>③ 生徒会主導でチラシを作成するなどの取組を行い、各学年、各HRで周知する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>1) 学校独自の科目では76%、地域ゴミ拾い大会では84%、ポラテンティアガイド体験では90%だった。</p> <p>① 新型コロナウイルスの影響で当初の予定からずれこんだが、それぞれの科目において、オンラインで講義を実施した。</p> <p>② 新型コロナウイルスの影響で連絡協議会は1回しか開催できなかった。</p> <p>③ ポラテンティアガイド体験の参加者は19名だった。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>全校レベルの重点目標は概ね達成できた。しかし、下位組織レベルの重点目標は、新型コロナウイルスの影響もあり達成できていないものもあった。今後にはオンラインの有効活用をより一層進めることで目標を達成したい。</p>	<p>1) 新型コロナウイルスの影響もあつたと思いが、全体として生徒の理解が深まったことは良かった。一方、理解が深まっていないとする生徒への指導のどこに課題があつたのか、把握する方法を検討してみたい。また、独自の科目の内容の見直しも行ってほしい。</p> <p>① 当該講師は他校でも講師としており多忙とのことである。もっと広く地域社会と連携し、講師の確保に努める必要がある。</p> <p>② 今後も新型コロナウイルスの影響が懸念される。より一層のオンラインの有効活用を図ってほしい。</p> <p>③ 過去の参加者の体験談を有効活用するなどして、より一層の参加を促してほしい。</p>
<p>◎「次年度への課題と今後の改善方針」</p>					<p>◎取組に係るレポートを課すことで課題意識の深化を図るとともに、指導の問題点等も併せて把握する。</p> <p>◎大学や関係機関等を通じて講師の依頼が可能なる人を紹介してもらい、リストを作成する。</p> <p>◎GIGAスクール構想への対応を図るために、教職員の研修を充実させる。</p>	

第2回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」会議録

- 1 日 時 令和3年3月19日（金） 午前10時から正午まで
- 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル 1階 グランヴィリオホール
- 3 出席委員 荒木光二郎委員，市岡沙織委員，儀宝修委員，近藤明子委員
坂田千代子委員，瀬尾陽子委員，孝志茜委員，辻貴博委員
西村智子委員，福谷あずさ委員，分木秀樹委員，松本賢治委員
山下一夫委員，結城栄子委員
- 4 式次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1)徳島県版「スクール・ミッション」の策定について
 - (2)各高等学校のスクール・ミッション(案)について
 - (3)意見交換
 - (4)その他
 - 3 閉会

〈意見交換〉

会長

それでは意見交換に移ります。どなたからでも御自由に御意見を言ってください。

委員

スクールミッション案を読ませていただき、2つのグループに分かれているという印象を持ちました。まず1つは、「地域」がキーワードになった「地域との連携」、「地域との産学連携」、「地域と連携したブランドの創出」、「地域と密着したビジネス」等です。これは、資料2の策定の視点の(1)③に対応したものであり、的確な視点であると思います。

もう一つは、「グローバル」や「社会をイノベーションする力」等がキーワードになったものです。高い志を持って国内外が抱える諸課題の発見・解決に向けて対応できるリーダーとしての素養を育成するといったものです。

また、この2つを組み合わせたやり方として、グローバルな視点を持って地域に貢献すると書かれているものもあります。これらは、はっきりと特徴が出ていて、選択肢が広がることで多様な進路実現が可能になると感じました。

一方、「持続可能な社会づくり」という視点は、端的には出てこないもので、学校によっては取り入れてもよいのではないかと思います。

城西高校神山校のスクールミッションのように、「地域に根ざした造園業」や「持続可能な環境保全型農業」、「地域産業を支えるために必要となる力を育成する」等の特色がはっきり出るものがないのではないのでしょうか。

委員

どの高校というのではありませんが、スクール・ミッションを見ただけで高校が分かり、その特徴が伝わってくるものがないと思います。先ほど、それぞれの学区ごとに代表的なスクール・ミッションを説明していただきましたが、その中にはうまく特徴が伝わっていないものもあったと思います。例えば、小松島高校であれば「生徒授業」という固有名詞を入れるのもよいのではないのでしょうか。固有名詞を入れることで特徴がよく伝わると思います。また、グローバルもいいですが、地域性や郷土愛も伝えてほしいと思います。

委員

中学生が見た時、横文字の「イノベーション」や「リーディングハイスクール」は難しいのではないかと感じました。また、単に「地域産業」と書くだけでなく、具体的に記載されていたほうがわかりやすいと思います。

会長

文字数について何文字以内等の具体的な取り決めはあるのでしょうか。

事務局

文字数に決まったものがあるわけではありませんが、キーワードでわかるものを目指しており、案としては3行以内を一つの目安に作成しました。神山校のように特色のある教育を実践していくところはそれを入れたいのですが、もう少し精査していく必要があると考えています。

会長

4月に教育委員会がミッションを策定して、それに基づいて各校がポリシーを定め、さらにそれを踏まえて7月にそれぞれ特徴を持たせて生徒募集案内をするという流れということでしょうか。

事務局

スケージュール的には会長がおっしゃったとおりです。これまでのスクールガイドでは、興味がある学校は見ようとしますが、今回のように共通の様式で見てわかるようなものであれば、それ以外の学校についても目が向き、さらにそこから踏み込んで学校案内を見ていただけるものを目指しています。

委員

スクール・ミッションが3行程度とすると、資料4の広報が具体的に書けるところになるとは思います。可能な範囲で数値化するとより分かりやすくなるのではないのでしょうか。他校と比べてどのような数の違いがあるのか等を示すといいのではないかと感じました。

委員

学校では教育活動の振り返り、評価を行います。それと同様に今回の取組をどのように評価するのかということや学校評価、学校評議員会にどのように反映されていくのかということを感じました。教育の中で数値化することというのは難しいのですが、そういったことが必要なのではと思います。

委員

よく練られたミッションだと思います。しかし、修飾語や修飾句が多くて、一番言いたいことが伝わらないと感じています。例えば、城東高校でいいますと、「高い志を持って全県下から集う仲間と切磋琢磨しながら成長できる環境のもと」の箇所は本当に全部必要でしょうか。どの学校も生徒は志を持っており、城東高校だけ「高い志」と書いた理由がよく分かりません。本校も全県一区ですが、全中学校70数校のうち50数校から本校に来ています。そういう意味では本校も全県下から集う仲間です。また、「リーダーとしての素養を育成する」というリーダーとは、どのようなリーダーなのか。本校もリーダーを育成する教育は行っています。それを城東高校やその他数校だけにリーダーという文言を使うのが果たしていいのか。学校の序列化が進んでいるのではないかという印象を受けます。特徴を出して横に広くするというのが本来の目的だと思います。特徴を表すことに特化して書いたほうがいいのではないのでしょうか。

委員

スクールミッション、スクールポリシーについて、例えば、吉野川高校の「生産、加工、販売、店舗経営」は、非常に具体的で、中学生、保護者等が見て、すぐにその学校がイメージできるよい表現だと思います。一方、普通科の場合では、幅広い進路実現という表現がほとんどでイメージしにくいということがあります。例えば、学校設定科目を設けて理系に注力しているとか、専門学校の進学までを見据えて幅広くやっているとか、生徒がイメージしやすい表現があればよいのではと感じました。

委員

具体的に書いたほうがイメージしやすいと感じました。このスクールミッションでは、普通科同士の違いがイメージできませんでした。例えば、このミッションの中で、広島叡智学園みたいな新しい取組ができていくのかどうか。もう少しチャレンジングな目標やミッションを掲げてもいいのではないかと思います。

委員

スクール・ミッション、スクール・ポリシーの広報イメージに関して、教育委員会のホームページ等で一覧で見られるのかということや、各学校でより分かりやすいものを作る予定があるのかということをお教えいただきたい。

事務局

現在、入試前には生徒募集案内という冊子を作っており、高校ごとに学校の特色や志願してほしい生徒像、募集人員、特色選抜の実技の内容等を見開きで掲載しています。この冊子は、各クラスに一冊分程度の部数を各学校に送付しています。また、各高校において募集案内をホームページに掲載しています。今後については県教育委員会のホームページに一覧でわかるように、また、動画を作成している学校も多くあるので、QRコードを貼り付けて興味がある高校の情報にたどりつけるようにしていきたいと考えています。

委員

県のホームページにテキストで一覽で掲載されていても興味がある人しか読まないの
で、気軽に読める広報の仕方が重要だと思います。限られた文字数でイメージを表現する
のはCMのコピーライトを考えるみたいな世界になってきて、なかなか難しいと思うので、
一言で表現するだけでなく、補足できるような形で特色が出せたらいいのではないかと感
じました。

委員

県のホームページでも公開するとのことですが、県教育委員会が公式に発表したホーム
ページの中で序列化が進むことがあってはならないと思います。よほど慎重に言葉・内容
を選んでやらなくてはならない。ここには美辞麗句も入っていますが、そういった言葉は
極力カットして、本当に学校でやってること、やろうとしていることを具体的に書くべきだ
と思います。各学校がこういうふうにしたいと言うのであればまだ分かりますが、公的な
立場の設置者である県教育委員会が発表するのは非常に重いことです。

委員

本当によく練られたキーワードが並んでいるミッションですが、実効性のあるものにし
ないと絵に書いた餅になってしまいます。また、策定までの過程がとても大事で、県教育
委員会がこういったビジョンを持っていることを一旦示しながら、学校現場に返して、キ
ャッチボールをしつつ、適切なものを設定するべきでないかと思います。このミッション
を実効性あるのものにするためには、生徒にどんな力をつけたいのか、どんな将来像を描
いているのか等を思い描くことができるものにする必要があります。また、ミッションの
作成過程で教職員の意識を喚起することも大事だと感じています。この一年、コロナ禍で
例年通りにできないことが多い中、柔軟な思考でスクラップアンドビルドしている時なの
で、本当に実効性あるものが生まれてくるのではないかと感じながら聞いていました。

会長

広報の前の段階でのミッションの在り方や、学校がポリシーをどう作成してくのかとい
うこと、また、そこでのキャッチボールが大事だということなど、さらには、ミッシ
ョンが教育委員会からの押し付けにならないか心配だというご意見等がありました。その
あたりについてはいかがでしょうか。

事務局

本日のたたき台を作成するにあたって、昨年末に各校を訪問しており、それぞれの強み
やこれまで培ってきたものを踏まえたつもりではあります。また、教育委員会として修正
したところも多々あります。まだ今の段階では、御指摘のあったキャッチボールが十分に
できている状況ではございませんので、今後、策定に向けてそういったこともやっていき
たいと考えています。

委員

先ほど、委員から事実としてやっていることを書くべきで、美辞麗句的なものが多いと
いう話がありました。それはその通りだという気がします。キャッチボールをしながら学
校が納得して、教育委員会の押し付けにならないという前提ではあります。資料2の徳

島県版「スクール・ミッションの策定について」に私は非常に感銘を受けました。例えば、1の徳島教育大綱に掲げる、「未知の世界に果敢に挑戦する夢と志あふれる人財の育成」という非常に高い目標を掲げられております。

これは知事も「ムーンショット」ということで、例えば宇宙旅行等の実現が難しいような新しいチャレンジをする人や、あるいは、徳島大学の野地学長は『BOLD 突き抜ける力』を取り上げ、社会を変えていくということをおっしゃっていますが、そういうこととも相通じる感じがします。それでいながら、徳島への郷土愛や誇りを持ち、持続可能な社会づくりの担い手という文言も入っています。

神山の話になりますが、神山まるごと高専を作られようとしているSanSan株式会社の寺田さんは、50年後、100年後に神山がシリコンバレーになっている可能性は大いに 있다고考えています。彼自身シリコンバレーで働いていたことがありました。シリコンバレーも元々はただの山だったのですが、シリコンバレーとか神山バレーみたいな流れを作るとするのは、徳島に根付きながら世界にイノベーションを起こして、新しい当たり前をつくる、世の中を変えていく人材を育成するというような志も考えられているように感じました。したがって、押し付けにならない範囲でキャッチボールしながら、高い志的なものも入ってもいいように思いました。

委員

企業的な視点になるので、また視点が変わるかもしれないですが、このスクール・ミッションとスクール・ポリシーはセットで考えるようなものではないかという印象を持ちました。企業の視点で考えると、いわゆるスクールミッションは企業理念のようなもので、どう決断しようか迷った時に基本として立ち返るべきものです。それに対して、スクール・ポリシーは、それを受けて実際の事業や最終的な業績という数字にあたるものであり、どちらか一方だけというよりは、この2つは両輪のような形で考えるのがよいのではないかと感じました。

学生が企業に就職する場合も、ミッションの企業理念に惹かれて業務内容を見る場合もあるでしょうし、逆に自分はこういう仕事がしたい、こういう業績があげたいというところから理念を見て合う合わないを決めていくこともあると思います。ミッションでは魅力的なことや基本に立ち返れるようなことが書かれているのがいいのではと思いました。ただ、実績や数字と合わなくなってきたら是正しないといけないと思いますし、書き方は気をつけなければいけないと先ほどの御意見を聞いて感じました。

企業側から見ると、決して偏差値の高い子を取りたいとは思っておらず、現場のリーダーでクラブ活動に熱中していた子が欲しかったりもしますので、ミッションでは多様性を示せばいいのではないかと私も感じています。

委員

先ほどの委員と私の意見は一致するのですが、県教育委員会が広報をするということですので、学校側とキャッチボールして行うのは当然です。ただ、学校の了解を得たからといっても、一般の方は学校側とやり取りをしている事を知りません。いずれにしても県教育委員会が公式に発表したということになりますので、慎重にやっていただきたいところです。やり取りするのは大事ですが、それを加味した上で県教育委員会として学校にどういうことを求めるのかを示してほしい。ただ、学校の了解を得られたからといって、「リーダー」とか「高い志」を入れない方がよいと思います。どこの学校の生徒も、程度の差

はあるかもしれませんが志を持っています。修飾語はできるだけ外して表現できることをしっかりと書く。塾とか予備校がランク付けするのは自由ですが、県教育委員会が公式に発表したことで序列化されることはあってはならないと思っています。ですから、そういったことをきちっと考えていただいて、そうならないように委員の皆様がおっしゃっていることを慎重に加味していただきたい。

委員

中教審が7月に出している「新時代に対応した高等学校教育の在り方」の論点整理の中で、ミッションは何のために作るのかということが書かれています。それと資料2にある「スクール・ミッションとは」の箇所が少し乖離しているような気がします。ここにある徳島県版「スクール・ミッション」については、その高校の先生が共通認識を持つために作るような書き方がされています。

一方で、中教審が出している内容については、卒業生や地域の方々も含めて本当に多様な関係者に対して示すものということも書かれています。そのことも踏まえて、果たして中学生が読んで分かるのか。もう少しまとめ方と目的を明確にすべきではないかと思いました。例えば、脇町高校をみると「進取の気風を継承し・・・」と非常に難しく書いています。誰のために、何のためにという視点からもう一度振り返って、もう少しすっきりまとめられたらどうかと感じました。

また、序列化につながらないような配慮が必要だということは私も感じています。

委員

保護者としての感想ですが、このスクール・ミッションでは中学生には意味が全然伝わらないと思います。言葉が難しすぎます。私が中学生だったら絶対ずっと見て終わると思います。この意味が分かる保護者ばかりではないということも踏まえて作っていただきたい。また、ホームページやQRコードを入れるのであれば、今現在通っている生徒たちの活動等も広報していただきたい。

委員

今の中学生や保護者にとって分かりやすいかどうかという視点で見ると、例えば、文化やスポーツ、国際性、商業、農業等のコンテンツが並んでいて、注力しているところに3つとか4つ丸が入っているような一目で特徴がわかるような方法もあるということをお伝えしておきます。

委員

今の学区制だと特徴ある高校にすることは、特に普通科高校は難しいのではないかと感じます。全県一区にして一芸に秀でた高校とそうでない普通科高校等、もう少し役割分担した方がいいのではないかと感じます。徳島県の弱点は私立高校がそれほど多くないことです。したがって特徴を出すというのはある意味私立高校みたいに一芸に秀でているような高校を作るようなものではないかと感じます。ただ、今の学区制はすぐに変えられるものではないので、広報等を行い、その中で特徴づけをしていって欲しいと思う次第です。

会長

学区制に関しては教育委員会の方で何か御意見ありますでしょうか。

事務局

学区制に関しても、平成30年度になりますがあり方検討会議を開催をさせていただき、学区のあり方について御議論をいただいたところです。いろんな御意見がありましたが、二つ御提案いただきました。一つは新たに全県一区の普通科高校を作るということ、もう一つは流入率の見直しをするということです。先日の令和3年度入学者選抜で城東高校を全県一区として実施したところです。

また、その後3学年がそろそろまで、3年ほどかけて見直すのが望ましいのではないかといった御提言もいただきました。令和3年度入学者選抜は、まだ二次募集も残っております。それが終わり次第、流入率の変更と城東高校を全県一区にしたことの検証をしていかななくてはならないと考えています。今の段階では結果が分かりませんが、結果が出た段階で御意見をいただくこともあろうかと思えます。

会長

私は、在り方検討会議の議長をしていたのですが、全県一区の学校の状況と、流入率をその都度見直し、最終的にはちゃんと検証していきましようということになりました。各校に特色を持たせる上で、学区制が縛りになっているのではないかという点についてはどうでしょうか。

委員

学区の中に普通科、専門学科がバランスよく配置されていますが、これから非常に人口が減少することになるので、その点も縛りになるのではないかと思います。委員もおっしゃっていたように、私のところも年に5から10人新入社員が入ってきます。社会でちゃんと生きていけるかどうかは出身高校は関係ありません。スポーツだけに特化した高校を作るといった特徴づけ、あるいは地元で根ざした高校を残すといった取組をしていかねばならないと思います。

委員

ミッションとポリシーは車の両輪のような形ですが、生徒が知りたいのはポリシーの方ではないでしょうか。綺麗事かもしれませんが、偏差値でどっちが上下というよりは、どのように社会貢献したいのか、どういう風に仕事をしていきたいのかということを育てるのが高校や大学等の教育機関の使命であると思います。生徒にとっても入学が目的ではありません。点数がこれくらいとかスポーツができるからとかというよりは、それを活かして社会人としてどういう風になっていくのかというイメージを持っていただくのがよいと思います。

新入社員を見ていた時にも、こういうことがしたいという自己分析ができている学生は凄く力を発揮しているイメージがあります。それを踏まえての意見ですが、進路実績の欄に四年制大学や民間企業等が書いてありますが、学生が見た時にあまりイメージがわからないのではないかと思います。具体的な企業名でなく、製造業が何パーセント、サービス業が何パーセント、あるいは研究職が多いとか、体力が活かせるような仕事が多いといったことが分かる方がよいと思います。

学校に序列がないのと一緒に企業にも序列はないと思っています。上場企業かどうかよりもジャンル・職種を記載することで、先生や保護者と自分の将来について考えるような機会になれば企業側としてはすごくいいと思います。そのようなことを記載した上で、それを選んで入った学生さんと言うことになれば、同じ資料を企業側にいただければ、この学校の生徒に説明に行ったらいいんじゃないかという具合に、生徒、企業側の双方が同じ資料を使えるようになるのではないかと思います。進学先も単に四年生国公立大というようなものより、理系・文系別をしっかりと記載したりの方がよいのではないのでしょうか。

会長

大学改革のことについて話をすると、国立大学は6年ごとに目標を立てて、それがどれだけでできているのかによって運営費交付金の金額も変わってきます。ちょうど今第3期が終わる時期でこの4月から6年目を迎えます。第4期どうしましょうかというところで、文科省と国立大学協会が話し合っています。

それを踏まえて、文科省が大きな目標を提示し、各国立大学は具体的目標と計画を立てます。そこでは、先ほどキャッチボールと言われた委員がおられました。そのような話し合いを文科省と各国立大学はしています。学校経営学会の会長をしている本学の理事によると、一生懸命話し合い、考えて頑張る学校は伸びるとのことです。県と学校現場が一緒になって考えてもらい、変な序列がつかないように多様化を目指し、評価をしてメリハリを効かせてもらったらいいのではないかと感じています。

委員

同感です。ミッションの語尾が、「～する力を育成する」とか「素養を育成する」と統一した上で学校に問い合わせていると思いますが、学力だけでは測れない個性とか能力を持つ生徒が欲しいと社会の側も望んでいるし、学校も育てたいと考えています。したがって、ミッションの語尾は「自立心を持ち何事も積極的に取り組める生徒を育てる」といった表現の方が生徒や保護者に分かりやすいのではないかと感じています。

委員

長野県教育委員会や大阪府の教育委員会で、すでにこのような取組を進めています。先ほどの結城委員の話に関連しますが、ある工業高校では育てたい生徒像を人間力、実践力、技術力として公表しており、わかりやすいものになっています。長野工業高校では中学生が分かりやすい絵を挿入するなどしています。長野県の飯山高等学校ではグランドデザインとしてポンチ絵を用いてわかりやすく広報しています。

会長

イメージ的に言うとミッションがあつてポリシーがあつて、さらに1、2枚各学校がわかりやすいものをつけるという御提案でしょうか。

委員

現在通っている生徒と先生が話し合つて作り上げるというのも中学生にはわかりやすくいいのではないのでしょうか。

委員

私自身の大学での体験です。私は夜間部に入学しましたが、入学してみると少人数制で教授との距離も近く、昼間と同じ教育を受けられる上に学費も安く、貴重な体験となりました。高校でも少人数のところもあると思います。そういった学校の雰囲気や距離感を押し出してもいいのではないかと感じました。

委員

今の意見と全く同じですが、本校には定時制があります。定時制は少人数です。教員が生徒に寄り添って教育活動を展開しています。昨日も球技大会がありましたが、生徒たちは生き生きと取り組んでいました。以前は出席率が低くて球技大会が開催できませんでした。今年、4年ぶりに開催できました。少人数指導で生徒に寄り添うことでこのようなことにつながったと考えています。

委員

教育委員会の立場として、中学生が高校受験するにあたって中学校側にもわかりやすく説明していかなければならないと感じました。大阪府のものを見ましたが、ポンチ絵も含めてわかりやすいところもありました。保護者や中学生に分かりやすい形でミッションを提示できるようにしなければならぬと感じています。

会長

大体御意見は出尽くしたようですが、非常に重い御意見をいただいたと思います。

まず、ミッションとポリシーは一体となったものということで取り組んでいただいたらという御意見。そして4月下旬にスクール・ミッションが策定されていくというスケジュール。

また、文言への注文がいろいろ付きましたので、それを参考にさせていただきたい。要は、分かりやすく、あるいは特色は大事ですが序列化が進むことにならないようにということです。

それから、作成過程では、学校側とよくキャッチボールしてくださいということがあったと思います。さらに、各校のガイドブックとは別に、中身は各学校に任せてミッションとポリシー合わせて2枚ぐらいのポンチ絵にしてはどうかという御意見。ここは写真が多くて楽しそうだなとか、いい意味で競争してもらったらという御意見が出たように思います。また、広報についても重要であり、どのようにして広めていくのかということはしっかり検討してくださいという御意見もありました。

評価、チェックをどうしていくのかというところも今後議論になっていくと思っております。

第3回では、そのあたりの点検評価、広報について深めていけたらと考えています。事務局の方から何かありますか。

事務局

本当に貴重な御意見をたくさん賜ったと思っております。委員さんから冒頭にありました評価ということについても大変貴重な御提言をいただいたと思っております。県教育委員会としてミッションを示し、それを踏まえて各学校がポリシーを策定していくわけですが、それが実現できなければ修正も必要ですし、ブラッシュアップしていく必要があると

思います。そのあたりについては持ち帰らせていただいて、第3回でお示しできるように検討したいと考えております。

事務局

第1回会議において、高校入試の特色選抜に関して、募集の内容が特定のスポーツに偏っていることから、多様な生徒に対応できるよう見直してはどうかという御意見をいただきました。

特色選抜というのは、本来、スポーツや文化活動、その他、高校が定める特色ある活動、特に部活動において意欲ある生徒を募集するための入試であります。

特色選抜という言葉からしても、今回の各高校の特色化・魅力化を図るための方策として、今後活用しない手はないと考えています。今回のスクール・ミッションやスクール・ポリシーに係る募集枠を加えたりする等、改善の余地があるのではないかと事務局でも考えています。

教育創生課では入試制度を担当しており、毎年3月末に全ての中学校と全ての高校の先生方にアンケートをとっています。その質問内容に、今回は新たに特色選抜の募集人員とその内訳について、スポーツ以外の募集をもっと増やすべきかどうかや、スポーツ種目や文化芸術分野の種類をもっと増やすべきかといった項目を加えてアンケートをとっている最中です。このアンケート結果を踏まえるとともに、当会議とは別に会議を立ち上げて、特に特色選抜の改善について検討したいと考えているところです。

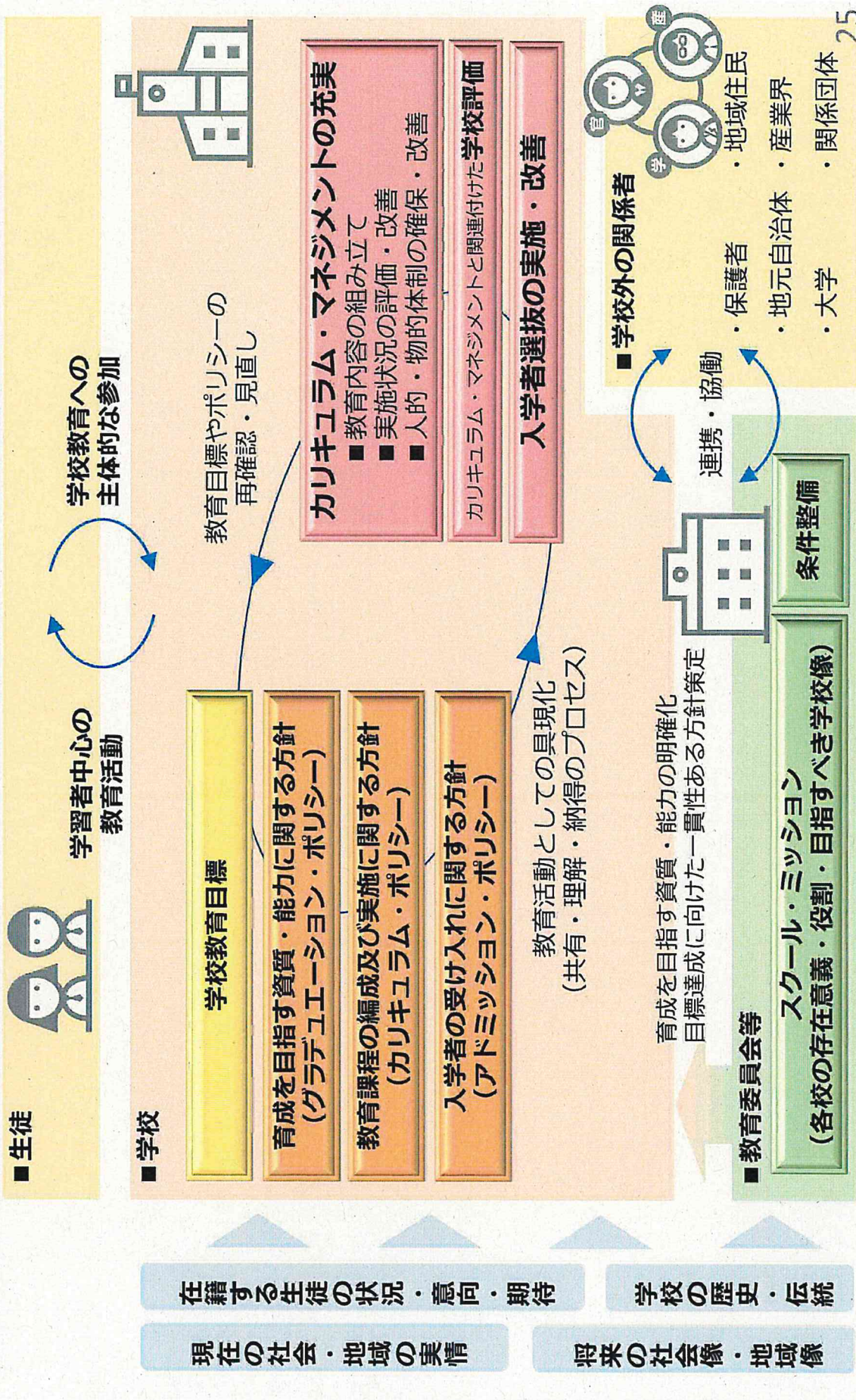
会長

今説明いただいた特色選抜の改善のための会議については、当会議と非常に関連していますので、また情報があれば教えていただけたらと思います。

会長

以上で、本日の議事を終了いたします。皆様方の御協力に感謝いたします。ありがとうございました。

スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づく教育活動の実施・改善（イメージ）



コミュニティ・スクール ～地域とともにある学校づくり～

子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには**社会総掛かりでの教育の実現**が不可欠です。



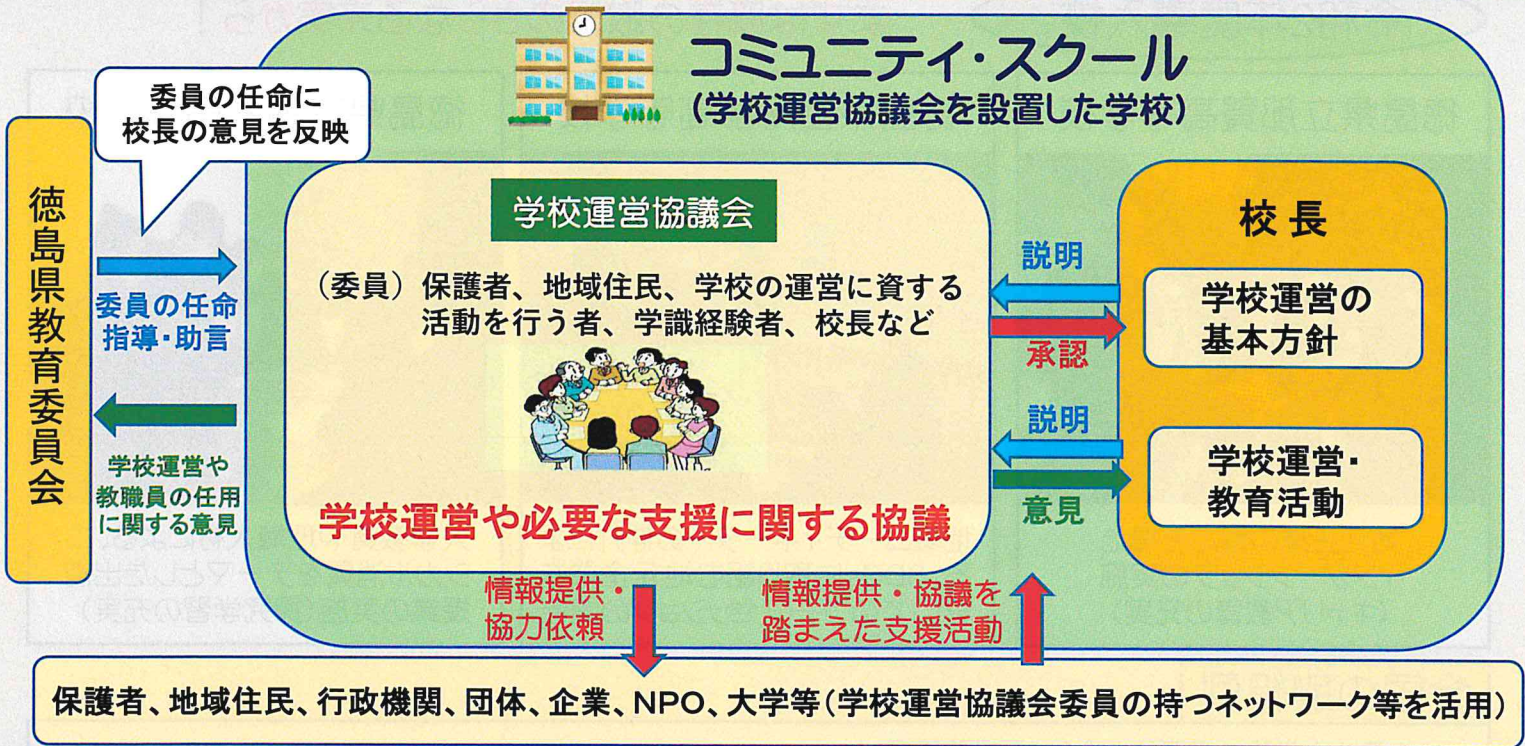
コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。

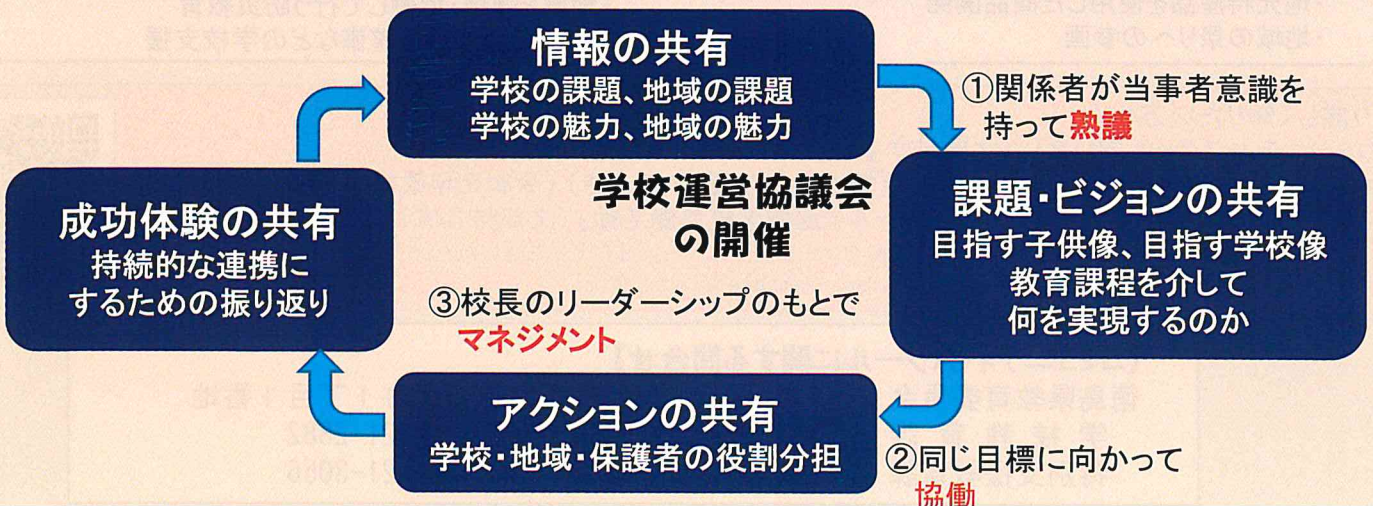
また、学校運営協議会を設置した学校のこともコミュニティ・スクールと呼びます。

令和4年度末までに
全ての県立学校に
コミュニティ・スクールを
導入します。

コミュニティ・スクールのイメージ



運営のポイント(熟議・協働・マネジメント)



コミュニティ・スクールの取組で広がる魅力

子供にとって

- 学びや体験活動が充実する。
- 地域との交流を通して自己肯定感や他人を思いやる心が育つ。
- 地域の担い手としての自覚が高まる。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができる。

教職員にとって

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能になる。
- 地域人材を活用した教育活動が充実する。
- 地域の協力により子供と向き合う時間が確保できる。

保護者にとって

- 学校や地域に対する理解が深まる。
- 地域の中で子供が育てられているという安心感がある。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できる。

地域の人々にとって

- 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながる。
- 学校を中心に地域がつながり、地域の活動が活発になる。
- 地域の防犯・防災体制等の構築ができる。

コミュニティ・スクールにおける地域と連携した取組例

令和2年度導入校

まずは既存の取組のさらなる充実から！

徳島県立那賀高等学校



地元企業の協力を得たインターンシップの実施（キャリア教育の充実）

徳島県立海部高等学校



地域コーディネーターの仲介による、SDGsに取り組む地元企業を招いてのブースセッションの開催

徳島県立名西高等学校



大学教員や地域人材による、エシカル消費をテーマとした出前授業の実施（探究学習の充実）

全国を取組例

- ・企業や大学等の専門性を生かした出前授業
- ・地域人材を活用した特別講座・フィールドワーク
- ・地元小・中学校との交流、共同学習の充実
- ・地元特産品を使用した商品開発
- ・地域の祭りへの参画

- ・障がいのある子供たちの地域生活を支えるネットワーク会議の開催（高等部をもつ特別支援学校としての企業・施設・団体等との関係づくり）
- ・地域と連携・協働して行う防災教育
- ・学習支援や環境整備などの学校支援

より詳しく知りたい方へ

『コミュニティ・スクール2018』（文部科学省）

『コミュニティ・スクールのつくり方（「学校運営協議会設置」の手引き）（令和元年改訂版）』（文部科学省）

『これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動』（文部科学省）

これらのパンフレットは文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」HPよりご覧いただけます。

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/document/pamphlet/index.html>



【コミュニティ・スクールに関する問合せ】

徳島県教育委員会 〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
学校教育課 TEL:088-621-3134 FAX:088-621-2882
特別支援教育課 TEL:088-621-3142 FAX:088-621-3056